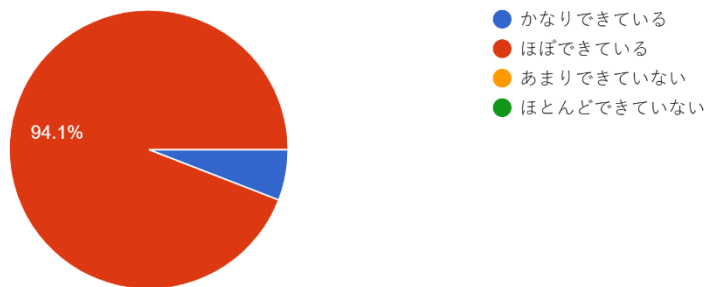
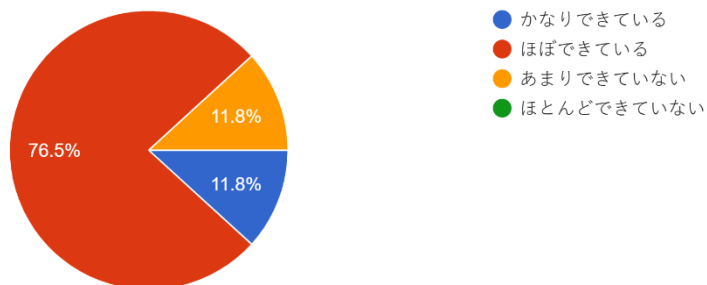


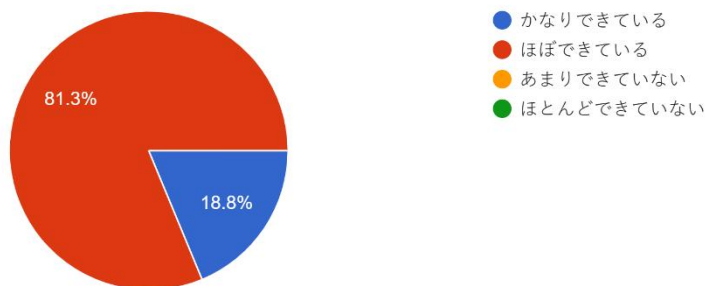
1 【保育の理念・保育目標】 1. 常に子どもの最善の利益を考慮して保育にあたっている
17件の回答



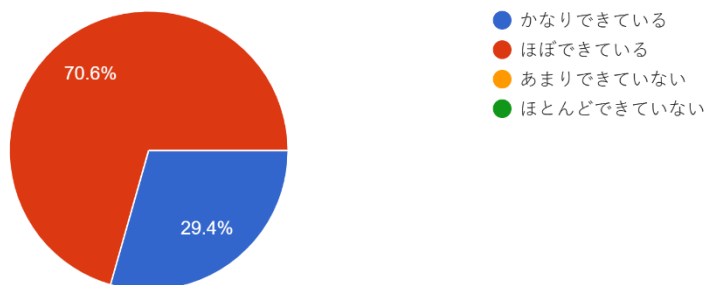
2 『保育園が目指す子どもの姿』を実現できるよ...している。また、職員同士話し合いを行っている
17件の回答



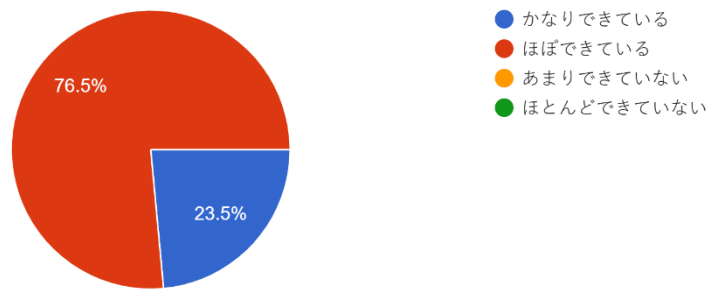
2 【保育内容】 1. 一人一人の子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育をしている
16件の回答



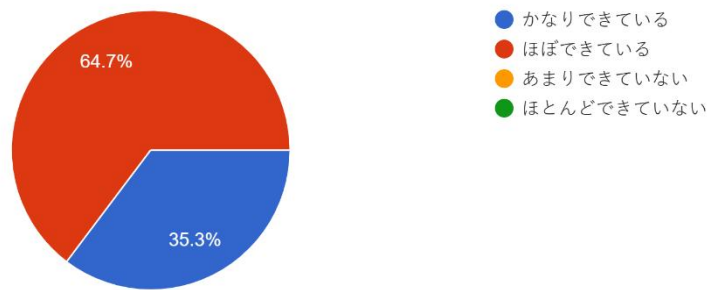
2. 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している
17件の回答



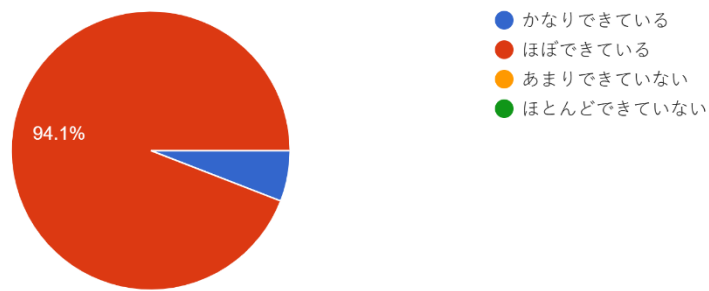
3. 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができるよう、援助を行っている
17件の回答



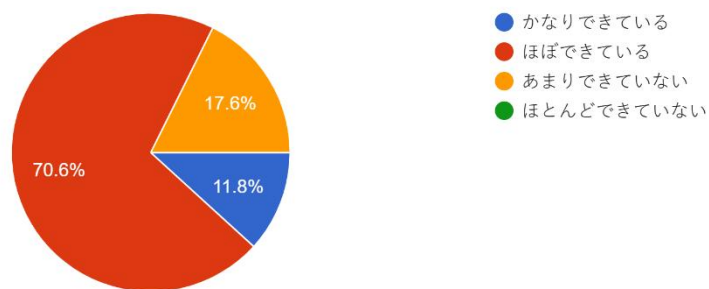
4. 子どもと信頼関係を築き、子どもの自己肯定感を育んでいる
17件の回答



5. 配慮が必要な子どもの状況に応じた環境整備し、保育内容や方法を考慮している
17件の回答

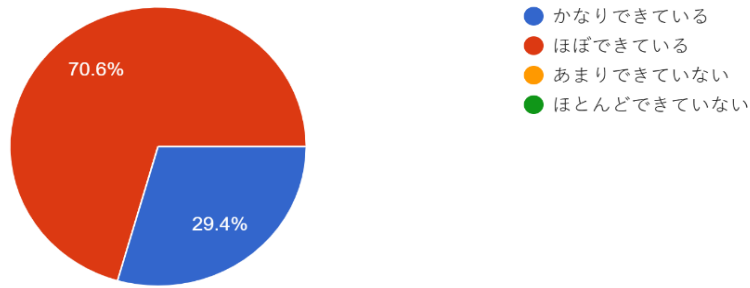


6. 就学を見通した保育の内容や方法、保護者の関わりに配慮している
17件の回答



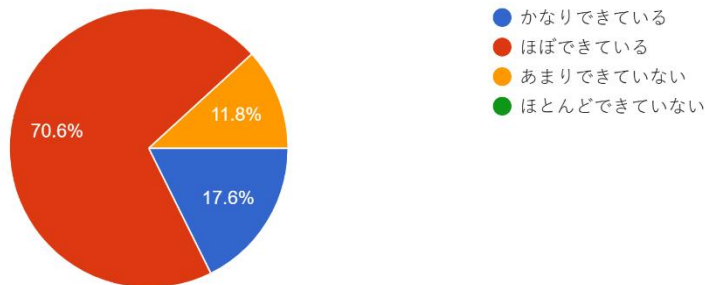
3 【健康管理・食事・保護者支援】 1. 子どもの健康管理を適切に行っている

17件の回答



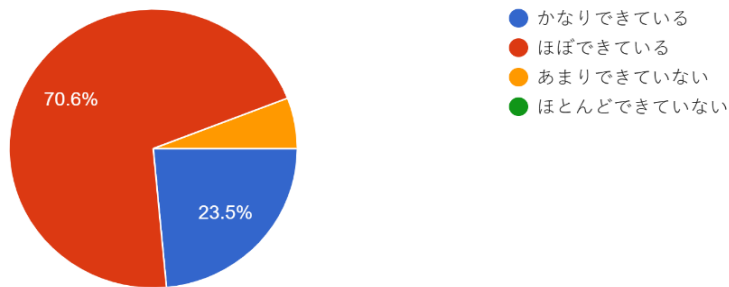
3. 日々のコミュニケーションより、保護者との信頼関係を築くよう取り組んでいる

17件の回答



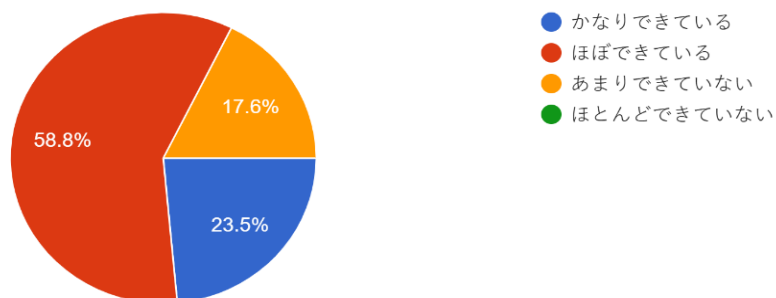
2. 子どもが楽しく、落ち着いて食事がとれる環境・雰囲気づくりを工夫している

17件の回答



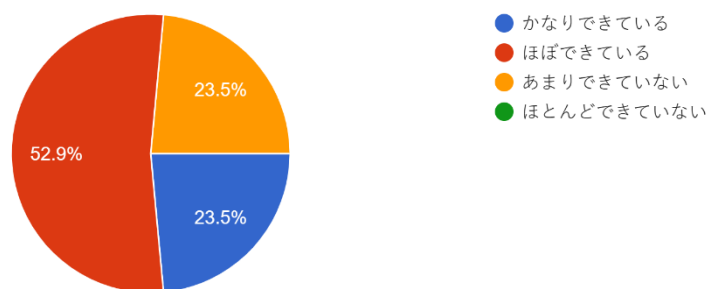
4 【職員の資質向上と責務】 1. 保育士は子ども...もにとってモデルになっていることを意識している

17件の回答



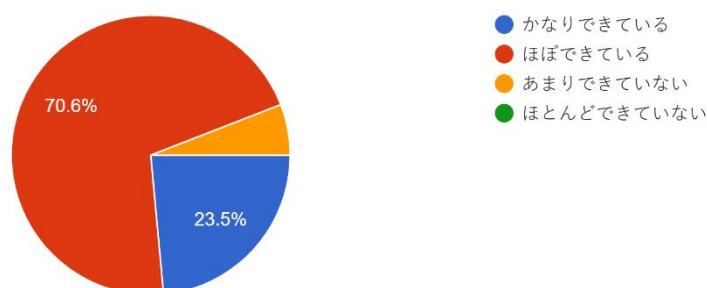
2. 園内外の研修及び自己研鑽により専門性を高める努力をしている

17件の回答



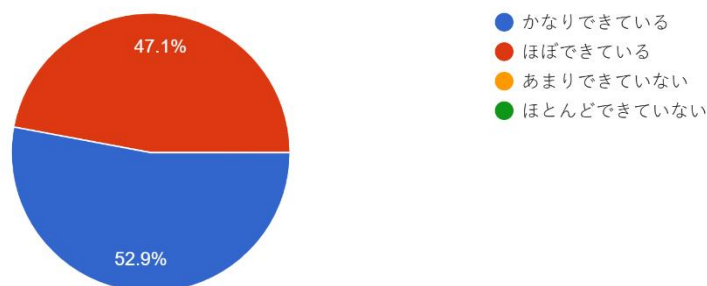
3. 報告、連絡、相談を正確・迅速に行っている

17件の回答



4. 子どもの情報を適切に扱うと共に、園内で知りえた事柄や情報に対して守秘義務を守っている

17件の回答



【保育理念・保育目標】

- ・法人理念：共に育み 共に創り 共に生きる 共には一人一人に寄り添うこと
- ・目指す子ども：誰とでも仲良く遊べ、思いやりのある子（思いやり）
夢中で遊べ、最後まで頑張れる子（集中力・頑張り）
自分からなんでもやろうとする子（自主性・創造力）

これらを育てる土台は、「自分は大切な存在」、「自分ができる」という自己肯定感です。
自己肯定感を育み、少しのことでは折れない、しなやかで強い子どもを育てていきます。

【保育内容】

- ・子どもが心地よく過ごすことができるように環境の整備を行う。
- ・自分で考えて、思う存分遊べる空間を作る。
- ・就学を見通して、3歳児から少しずつ内容を見直していく。

【健康管理・食事・保護者支援】

- ・子どもたちが楽しく、落ち着いて食事がとれる環境・雰囲気づくりを見直していく。
- ・栄養士の指導の下、食育を行うことで食の関心を深める。
- ・保護者とのコミュニケーションを積極的にとるよう昨年度同様個人懇談を実施する。

【職員の資質向上と責務】

- ・多様化する子どもに合わせて、保育の形を柔軟に変えていく。
- ・保育士自身の言動、心の動きなどの振り返りをセルフチェックリストシートで自己評価を続けるとともに、外部研修、全職員での zoom 研修を受け資質向上に努めていく。
- ・子どもの情報など守秘義務について、わかりやすく常に発信をして、個人情報管理を徹底していく。

分析と今後の取り組み

『保育園が目指す子どもの姿を実現できるよう担任は保育計画を立て、補助職員にも共有している』に対し、【あまりできていない】との回答が多く、普段より職員会議を通じて『保育園が目指す子どもの姿』とは何かを発信していきます。

『保育士は子どもにとって最も身近な人的環境であり、すべての言動が子どもにとってモデルになっていることを意識している』に対し、【あまりできていない】と17.6%が回答。日常のあらゆる場面の言動が、子どもたちのモデルとなるよう、今後も人権を学び全体に発信をしていきます。

『園内外の研修及び自己研鑽により専門性を高める努力をしている』に対しては23.5%が【あまりできていない】と回答。研修で学んだ情報を全員に配布をするなど、学びと情報共有の環境を整備し、保育士の資質向上に努めます。

また、1年を振り返り、感謝の気持ち「ありがとう」の声掛けが少ないように感じました。令和8年度からは、園長自らが率先し園児と保護者、そして職員に感謝の気持ちを伝えていきます。

最後に、自己評価は保育の良し悪しや出来、不出来を判断するために行うものではなく、保育に携わる職員一人一人が、子どもについての理解をより豊かなものとし、自分たちの目指す保育を実現していくことに向けて、日々の保育実践の意味を考え、より良い実践へとつなげていくために行うものであり、自分たちの保育の良さや今後取り組んでいきたいことを意識し、意欲を持てるような評価を行うためには、無理なく継続すること、一人一人が主体的に取り組めることが重要であると考えています。